令和５年４月１７日

令和４年度「熊本大学病院医療助成金」使用実績報告書

（一般財団法人恵和会寄附金）

使用者（代表者）	氏　名	所　属	職　名
	吉武　淳	緩和ケアセンター	教授
グループ全員＊記入欄が不足する場合は、別紙に記入	※別紙のとおり		

研究テーマ若しくは活動テーマ	患者の意向尊重と医療・ケアの質の向上を目的としたアドバンス・ケア・プランニングの加速		
助成金額	240,000円	助成金使用総額	240,000円

使用内訳

消耗品　240,000円

（内訳）・E-Field研修用消耗品（用紙、名札、リングファイル等）
・医師向けポスター用消耗品（グロスコート紙）
・リーフレット用消耗品（用紙、カタログケース等）
・ニュースレター用消耗品（用紙）
・その他ACP関連消耗品

成　果(※具体的な効果および自己評価も含め1,000字程度)

【院内E-Field研修の開催】

熊本大学病院主催のE-Field研修(本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 相談員研修会：Education For Implementing End-of-Life Discussion)を2回開催した。令和4年6月4日(土)は院内から21名が参加し、令和5年2月19日(日)は院内から24名、院外から20名が参加(イエズスの聖心病院、熊本中央病院、御幸病院、谷田病院、くまもと成仁病院)した。多職種、多施設参加の研修会を企画・開催してACP（Advance Care Planning）の普及に寄与した。いずれも厚生労働省の委託を受けた正式な研修会として修了証が発行される予定である。

【医師向けポスターの配布】

ACPの推進には医師の理解と協力が必要不可欠であり、院内の医師を主な対象とした「医師の方々へ伝えた“ACP”～看護師達と協働してACPを進めるために～」という内容のポスターを作成、配布した。

【ACP推進に関するリーフレット(患者・家族用)の設置】

院内スタッフがACPに関する説明を行いやすくするために、関係部署(東病棟3階、東病棟5階、東病棟11階、外来Aブロック、EFブロック)に、当院を利用した患者や家族等を対象としたリーフレットを設置した。ACPについて一緒に考え、どのように繰り返し話し合っていくのか等、患者や家族等へのACPの普及・啓発活動を行った。

【ACP推進チームニュースレターの発行】
ACPを院内で広く周知するため、ACP推進チームの活動報告としてニュースレターを2回（令和4年5月、令和4年10月）発行した。ニュースレターでは、リーフレットの案内、ACPに関する院内でのコンサルト例、E-Field研修の報告、厚生労働省の人生会議普及・啓発リーフレット、医師向けポスター等の情報を掲載し、普及・啓発活動に努めた。

【第51回臨床カンファレンス】
「熊本大学病院におけるACPの取り組みについて」というテーマで、ACP推進チームの循環器内科・消化器内科・呼吸器内科で取り組んでいる専門的取り組みについて、院内職員や医学部生等を対象に臨床カンファレンスを行い、100名以上が参加した。
院内の先進的なACPの取り組みを院内外に紹介することで、基本的教育活動に貢献した。

【熊大病院ニュース第33号　2023年春号】
「熊本大学病院ACP推進チームの活動と“人生会議”のすすめ」と題した特集記事を掲載した。

別紙

令和 4 年度 ACP 推進チームメンバー

氏名	所　属	職　名
吉武　淳	緩和ケアセンター	教授
近本　亮	医療の質・安全管理部	教授
井原　国代	看護部	副看護部長
安達　美樹	看護部(緩和ケアセンター)	看護師長
髙潮　征爾	循環器内科	助教
山本　正啓	循環器内科	特任助教
増永　愛子	呼吸器内科	助教
猿渡　功一	呼吸器内科	助教
立山　雅邦	消化器内科	助教
田中　健太郎	消化器内科	医員
森枝　悟	緩和ケアセンター	特任助教
門岡　康弘	生命倫理学講座	教授
塘田　貴代美	看護部(東病棟 5 階)	看護師長
山本　嘉代	看護部(東病棟 11 階)	看護師長
德永　美紀	看護部(東病棟 3 階)	看護師長
原田　薫	地域医療連携センター	MSW
一美　奈緒子	医療の質・安全管理部	特任助教
中村　和美	薬剤部	副薬剤部長
高林　学	薬剤部	薬剤師
中村　太志	医療情報経営企画部	教授
長瀬　博美	栄養管理部	副栄養管理室長

令和4年度　熊本大学病院

本人の意向を尊重した意思決定のための研修会
相談員研修会

人生の最終段階における医療・ケアについては、医療福祉従事者から適切な情報の提供と説明がなされた上で、本人が家族等および医療福祉従事者と話し合いを行い、本人による決定を基本として、進めることが重要とされています。
この度、熊本大学病院での最終段階における医療・ケアに係るさらなる体制整備を図るため、厚生労働省の「人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業」に基づく正規研修として、院内での研修会を実施いたします。

対象

1.人生の最終段階における医療・ケアに関する意思決定に携わっている医療福祉従事者
2.原則として、研修会受講時点において、人生の最終段階における医療・ケアに 携わる者としての 経験が3年以上であることが望ましく、研修終了後も引き続き、当該医療・ケアに携わる予定である者

募集人数１６名（※定員を超える場合は、厳正に選考いたします）

開催日時

２０２２年６月４日(土)　９：00～１７：３０（受付/８：３０～）

開催場所

熊本大学病院　管理棟３階
集合形式で開催します。
感染対策を徹底して開催しますが、万が一の場合は、開催方法の変更や中止・延期の可能性もあります。

申込方法

参加申込フォーム(下記URLまたはQRコード)へ必要事項を入力し、申請して下さい。
https://forms.office.com/r/P0aeaMsFeS

申込フォーム

申込締切

２０２２年４月２８日(木)

プログラム

９：００　～　９：１５	**イントロダクション**
９：１５　～　９：５０	**講義（ガイドライン総論）**
９：５０　～　１１：０５	**講義・グループワーク（本人の意思決定する力を考える）**
１１：０５　～　１１：１５	休憩
１１：１５　～　１１：５５	**講義・グループワーク（本人の意思の確認ができる場合の進め方）**
１１：５５　～　１２：３０	**講義（アドバンス・ケア・プランニング）**
１２：３０　～　１３：１５	昼食
１３：１５　～　１４：４５	**ロールプレイ・講義（アドバンス・ケア・プランニングの実践）**
１４：４５　～　１５：００	休憩
１５：００　～　１５：２０	**講義（本人の考えを推定する）**
１５：２０　～　１５：４０	**講義（本人にとって最善の方針について合意する）**
１５：４０　～　１７：１０	**グループワーク（多職種チームで本人の方針について検討する）**
１７：１０　～　１７：３０	**質疑応答**

お問い合わせ：熊本大学病院医療サービス課地域・がん医療連携担当
Tel：096-373-5993　Mail：iyks-ganrenkei@jimu.kumamoto-u.ac.jp

令和4年度熊本大学病院　本人の意向を尊重した意思決定のための研修会　相談員研修会　受講生アンケート集計

【日　時】令和4年6月4日(土)

【場　所】管理棟3階　第一会議室

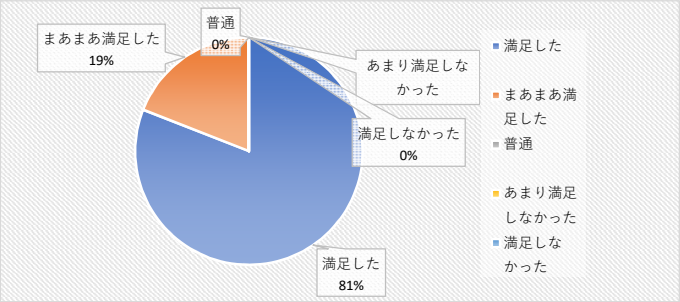
【受講生】21名

1.職種

回答	回答数
医師	4
看護師	14
管理栄養士	1
薬剤師	2
合計	21

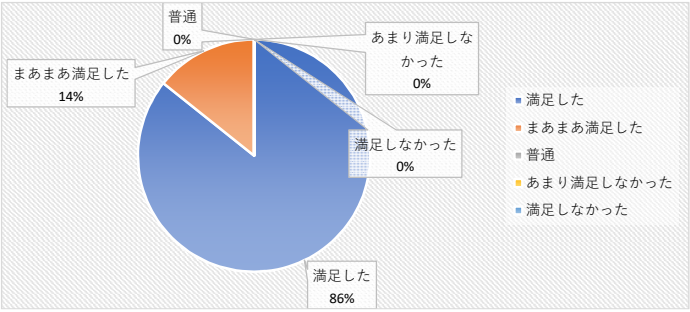
2.研修の全体的な印象について

回答	回答数	内訳
満足した	17	医師2,薬剤師2,栄養士1,看護師12
まあまあ満足した	4	医師2,看護師2
普通	0	
あまり満足しなかった	0	
満足しなかった	0	
合計	21	



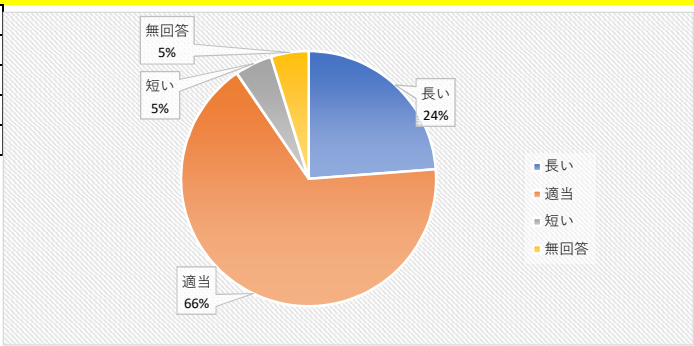
3.研修の内容について

回答	回答数	内訳
満足した	18	医師3,薬剤師2,栄養士1,看護師12
まあまあ満足した	3	医師1,看護師2
普通	0	
あまり満足しなかった	0	
満足しなかった	0	
合計	21	



4.所要時間について

回答	回答数	内訳
長い	5	医師2,薬剤師1,看護師2
適当	14	医師2,薬剤師1,栄養士1,看護師10
短い	1	看護師1
無回答	1	看護師1
合計	21	

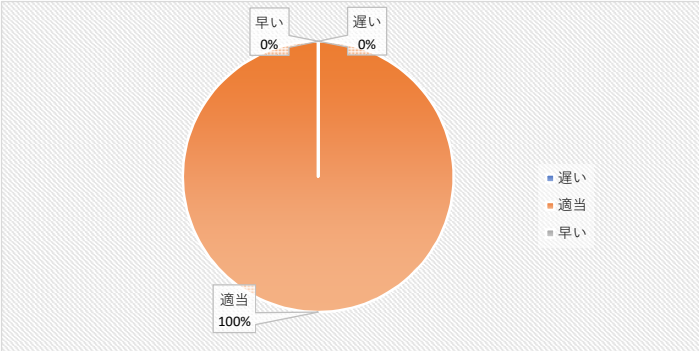


希望所要時間

- 5時間程度
- あと1時間ほど短ければ
- 半日

5.開始時間について

回答	回答数	内訳
遅い	0	
適当	21	医師4,薬剤師2,栄養士1,看護師14
早い	0	
合計	21	

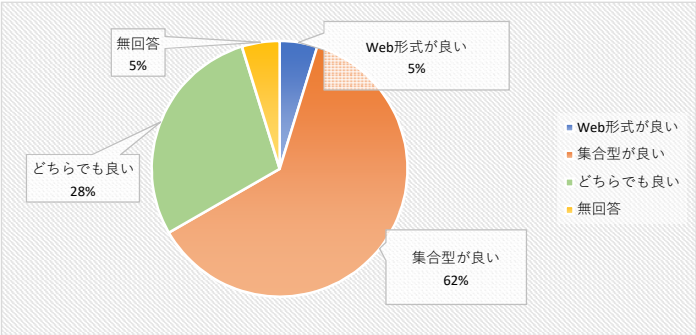


希望所要時間

・半日

6.今回の実施形式

回答	回答数	内訳
Web形式が良い	1	看護師1
集合型が良い	13	医師1,薬剤師1,看護師11
どちらでも良い	6	医師3,薬剤師1,栄養士1,看護師1
無回答	1	看護師1
合計	21	



理由(Web形式が良い)

・参加しやすいため。

理由(集合型が良い)

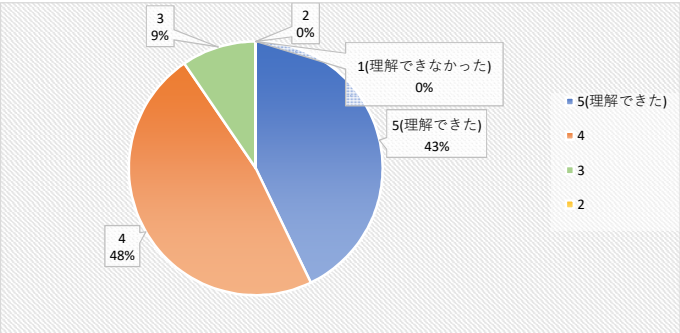
・他職と意見交換、ロールプレイができて多くの気付きがあった。
・その場で質問しやすい。
・グループワーク、ロールプレイが多いので、集合型が意見交換しやすいと思う。
・グループワーク、ロールプレイが良かった。
・ロールプレイやグループワークがあるので、Webよりも対面式の方がわかりやすかったです。
・他職種とディスカッションでき、とてもACPについて理解が深まる。

7.人生の最終段階の医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて理解できましたか。

理解できた　　理解できなかった

5　4　3　2　1

回答	回答数	内訳
5(理解できた)	9	医師2,薬剤師2,看護師5
4	10	医師2,栄養士1,看護師7
3	2	看護師2
2	0	
1(理解できなかった)	0	
合計	21	



理由(5 理解できた)

・事前学習もわかりやすかったので。
・事前学習からゆっくり頭を整理し、当日にのぞむことができました。
・講義して頂いた内容、ロールプレイで実践し、内容が理解できた。

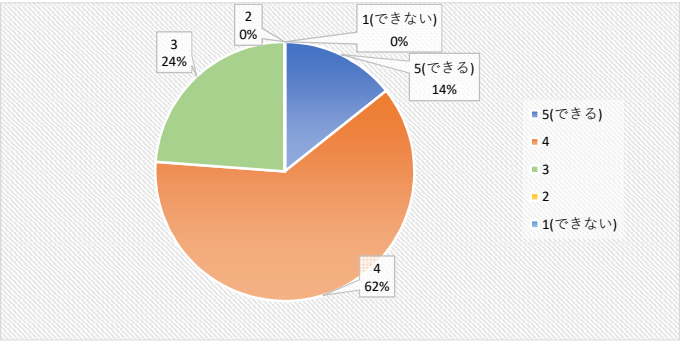
理由(4)

・4分割の枠組みの部分がダブったりして難しかった。
・ガイドラインを熟知できていない部分があります。
・もうすこししっかり読んでみたいと思います。

8.今後、実践において、家族・介護者が最善利益を考えることができるような関わりを持つことができそうですか。

できる　　できない
5　4　3　2　1

回答	回答数	内訳
5(できる)	3	医師2,看護師1
4	13	医師2,薬剤師1,看護師10
3	5	薬剤師1,栄養士1,看護師3
2	0	
1(できない)	0	
合計	21	



理由(5 できる)

・物語の主人公は患者さんだと思って実践しようとしてます。

理由(4)

・悪い事は知りたくない患者、家族も告知してほしくないと思っている人に、どう関わっていくか難しい。
・Drとの話し合いを行う機会をまだ十分に保てていないこともあるため。
（Drとコミュニケーションはとれているが）
・やってみようと思います。
・限られた時間のなかですが、チームでみんなで意識して取り組んでいきたいです。
・「本人の最善利益を考えること」を念頭において関わっていきたいと思います。

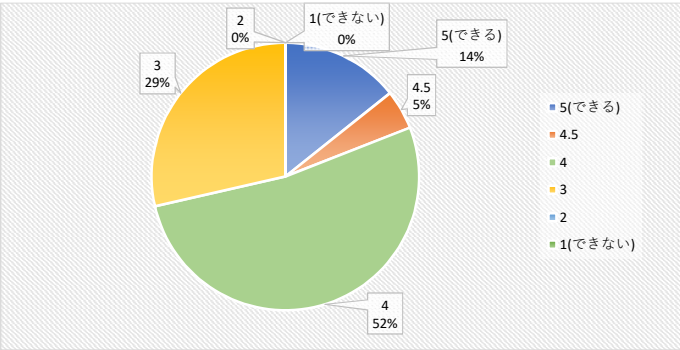
理由(3)

・現場で、より複雑な場面などもあり、スムーズに行かないこともあると思います。
・自分が主体となって行う機会がまだなさそうであるため。

9.今後、本人にこれからの医療・ケアに関する話し合い（ACP：人生会議）を実践できそうですか。

できる　　できない
5　4　3　2　1

回答	回答数	内訳
5(できる)	3	医師2,看護師1
4.5	1	看護師1
4	11	医師2,薬剤師1,看護師8
3	6	薬剤師1,栄養士1,看護師4
2	0	
1(できない)	0	
合計	21	



理由(5 できる)

・普段の会話の中でもできると思います。

理由(4)

・診療科が協力的なので。
・どこの場所で伝えるか、個室か待合室かなど環境についての問題点はあるが、もしもの時について話し合いを実践していきたいです。
・Drと協力しながらチームの一員としてがんばりたいです。
・少しずつですが、今日のことを振り返りながらやっていきたいと思います。

理由(3)

・どのように進めていくのか理解ができたので、以前よりは進められそうです。
・自分が主体となって行う機会がなさそうであるため。補助的なポジションならありえるかも？
・頑張りたいと思います。
・相談できる窓口を知っていただき、利用していただくこと。

10.今後、院内でACPを推進していくうえで、現場のスタッフへどのような支援が必要と思いますか。

・このような研修に、やはりDrがたくさん参加すべきだと思います。わりと、ナースは積極的に学んでいるようです。とくに外科系のDrにはもう少しACPについて学んでほしい。(看護師)
・患者さんの大切にしていること、話し合うポイントや声かけの方法など、価値観を共有することが大切。技術面での支援、緩和の訓練が必要となるため取り組みたい。(看護師)
・ACPを行う時期、タイミングについての共通理解を促す。(医師)
・話を聞き出すスキルアップ支援、病棟全体でACPに取り組む雰囲気作りは必要だと思います。(看護師)
・技術面、声のかけ方、表情など。(看護師)
・周囲のACPへの理解。ACPを円滑に進めるためのノウハウの共有（現場での実際など）。(医師)
・ACPに対する理解。ロールプレイはとても大事だと思います。実践で生かせます。(看護師)
・悩んだ時はみんなでカンファレンスを行い、共有し支援していきたい。(看護師)
・「ACPとは何か」という簡単でもいいので、レクチャーがあるとよい。（30分程度？）(医師)
・特定の人物への業務add on とならなければいいなと思います。組織として維持継続できる仕組みをバックアップする事が必要と思います。(薬剤師)
・普段のPtさんのコミュニケーションでも世間話の中でもできると思います。(看護師)
・ACPの正しく理解するツールやトレーニング。(薬剤師)
・①まずはACPの進め方を周知する。②多職種間と話し合う機会を作る。③チームで取り組む。(看護師)
・かなり必要だと思います。(看護師)
・事例検討や他職種との意見交換の場を継続いただきたいです。(看護師)

10.今後、院内でACPを推進していくうえで、現場のスタッフへどのような支援が必要と思いますか。

・動画の講義はもっと短くして欲しい、倍速でみるなど（読んだ方が早い）(医師)
・とても勉強になりました。お忙しい中、貴重な機会を作って頂いてありがとうございました。(医師)
・勉強になりました。もしもの時についての導入の話しかけ方について分かりやすかったです。(看護師)
・概念としては理解しましたが、ロールプレイ含めた研修であいまいだったものが詳しくわかるようになりました。(薬剤師)
・とても深い深い学びになりました。参加させて頂きありがとうございました。(看護師)
・もうすこしゆっくりグループワーク等したかったです。(看護師)
・貴重な機会をただきありがとうございました。(看護師)
・大変勉強になりました。ありがとうございました。(看護師)

10.今後、院内でACPを推進していくうえで、現場のスタッフへどのような支援が必要と思いますか。

・ACP関連の取り扱いについて。(医師)

令和4年度第２回　熊本大学病院

本人の意向を尊重した意思決定のための研修会
相談員研修会

人生の最終段階における医療・ケアについては、医療福祉従事者から適切な情報の提供と説明がなされた上で、本人が家族等および医療福祉従事者と話し合いを行い、本人による決定を基本として、進めることが重要とされています。

この研修は、厚生労働省の「人生の 最終段階における医療・ケア体制整備事業」に基づく正規研修です。研修修了後には、修了書をお渡しします。

なお、お申し込みの際には「医師を含めた4名1チーム」でお申し込みいただきますようお願い申し上げます。

対象

●熊本県内の医療機関・福祉施設等に従事している医療福祉従事者
●人生の最終段階における医療・ケアに関する意思決定に携わっている医療福祉従事者
●原則として、研修会受講時点において、人生の最終段階における医療・ケアに 携わる者としての経験が3年以上であることが望ましく、研修終了後も引き続き、当該医療・ケアに携わる予定である者

募集人数３６名（※定員を超える場合は、厳正に選考いたします）

開催日時

２０２３年２月１９日(日)
９：００～１７：３０（受付 ８：１５～）

開催場所

熊本大学病院　管理棟３階
集合形式で開催します。
感染対策を徹底して開催しますが、開催方法の変更や中止・延期の可能性もあります。

申込方法

参加申込フォーム(下記URLまたはQRコード)へ必要事項を入力し、申請して下さい。
また、医師を含めた4名1チームでお申し込みいただきますようお願い申し上げます。
https://forms.office.com/r/LqZg8ffE4v

申込フォーム

申込締切

２０２３年１月３１日(火)

プログラム

９：００　～　９：１５	イントロダクション
９：１５　～　９：５０	講義（ガイドライン総論）
９：５０　～　１１：０５	講義・グループワーク（本人の意思決定する力を考える）
１１：０５　～　１１：１５	休憩
１１：１５　～　１１：５５	講義・グループワーク（本人の意思の確認ができる場合の進め方）
１１：５５　～　１２：３０	講義（アドバンス・ケア・プランニング）
１２：３０　～　１３：１５	昼食
１３：１５　～　１４：４５	ロールプレイ・講義（アドバンス・ケア・プランニングの実践）
１４：４５　～　１５：００	休憩
１５：００　～　１５：２０	講義（本人の考えを推定する）
１５：２０　～　１５：４０	講義（本人にとって最善の方針について合意する）
１５：４０　～　１７：１０	グループワーク（多職種チームで本人の方針について検討する）
１７：１０　～　１７：３０	質疑応答

お問い合わせ：熊本大学病院医療サービス課地域・がん医療連携担当
Tel：096-373-5993　Mail：iyks-ganrenkei@jimu.kumamoto-u.ac.jp

令和4年度第2回熊本大学病院　本人の意向を尊重した意思決定のための研修会　相談員研修会　受講生アンケート集計

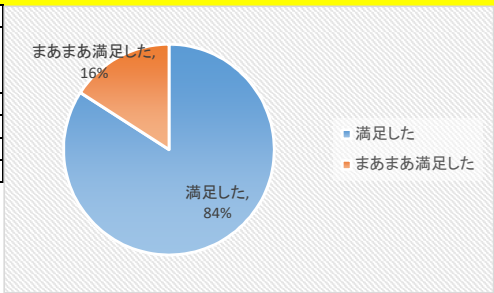
【日　　時】令和5年2月19日（日）
【場　　所】管理棟3階　第一会議室
【参加施設】6施設
【受　　講】44名
（内訳）熊本大学病院24名（医師5名、薬剤師3名、看護師13名、管理栄養士2名、理学療法士1名）
イエズスの聖心病院4名（医師1名、看護師3名）
熊本中央病院4名（医師1名、薬剤師1名、看護師1名、言語聴覚士1名）
御幸病院4名（医師1名、看護師1名、作業療法士1名、MSW1名）
谷田病院4名（医師1名、看護師2名、MSW1名）
くまもと成仁病院4名（医師1名、看護師2名、MSW1名）

1.職種

回答	回答数
医師	10
薬剤師	4
看護師	23
管理栄養士・栄養士	2
作業療法士	1
理学療法士	1
社会福祉士	1
MSW	1
ST	1
合計	44

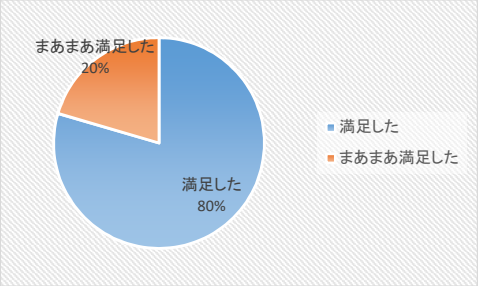
2.本研修の全体的な印象について

回答	回答数	内訳
満足した	37	医師6,薬剤師2,看護師22,管理栄養士2, 作業療法士1,理学療法士1, 社会福祉士1,MSW1,ST1
まあまあ満足した	7	医師2,薬剤師2,看護師1
普通	0	
あまり満足しなかった	0	
満足しなかった	0	
合計	44	



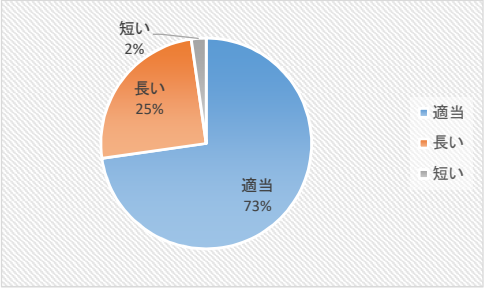
3.本研修の内容について

回答	回答数	内訳
満足した	35	医師6,薬剤師2,看護師21,管理栄養士2, 作業療法士1,理学療法士1, 社会福祉士1,ST1
まあまあ満足した	9	医師4,薬剤師2,看護師2,MSW1
普通	0	
あまり満足しなかった	0	
満足しなかった	0	
合計	44	



4.所要時間

回答	回答数	内訳
適当	32	医師6,薬剤師4,看護師17,管理栄養士1, 作業療法士1,理学療法士1, 社会福祉士1,ST1
長い	11	医師4,看護師5,管理栄養士1,MSW1
短い	1	看護師1
合計	44	



希望所要時間
「長い」と回答された方

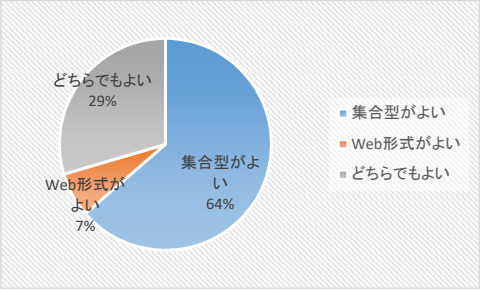
・volumeに対しては適当と思いました。
・半日×2日間
・1日としては長い。日付は2日間くらい使うとよりよい
・半日くらいがいい
・半日程度
・6時間程度

「短い」と回答された方

・GWの話し合いの時間をもう少し長く

5.今回の実施形式

回答	回答数	内訳
集合型がよい	28	医師4,薬剤師3,看護師18,管理栄養士1,社会福祉士1,ST1,
Web形式がよい	3	薬剤師1,看護師1,作業療法士1
どちらでもよい	13	医師6,看護師4,管理栄養士1,理学療法士1,MSW1
合計	44	



理由(集合型がよい)

・ロールプレイングの時に話しやすく、グループワークも盛り上がるため
・面と向かう方がよい
・表情や空気が伝わりやすい。目線もわかりやすい。
・ロールプレイがとても勉強になった。明日からの実践で活用できるため集合型が良いと思った。
・グループワークやロールプレイはとっても学ぶことが多いため
・Webではロールプレイがやりにくい
・多職種と顔を合わせたグループワークをすることは意義のあることだと思いました。
・グループワークやロールプレイができて良かった。
・ロールプレイで実践したことは具体的にどのようにPtへ伝えていけたら良いのか、どこがいけなかったのか理解出来たので、ロールプレイやグループワークのできる集合型が良いと思いました。
・Webより集合型の方がグループワークの時に発信しやすいから、集中できるから
・他施設の方と話をする機会になるため
・GW、ロールプレイは相手の様子がよくわかり集合の方がしやすいのかと思いました。
・グループワークはWebではしづらい。
・互いに話し合うことが出来る
・他HPの方とも相談でき、考えを知ることができました。
・グループワークを通して様々な意見が聞ける
・ディスカッションできる所が良い。グループで互いの意見を聞けて学べることもあって良かった
・グループワークやロールプレイはどうしてもやりにくい。連携の場になる
・顔がみえて直接話ができたほうがコミュニケーションがとりやすいから
・実際に話せて勉強になった

理由(Web形式がよい)

・都合に合わせて参加可能のため

理由(どちらでもよい)

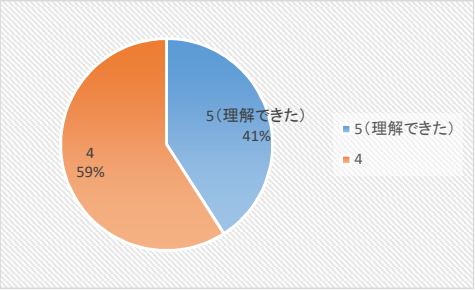
・どちらにもメリットがある
・Webでも良いと思いましたが、リアルの良さも感じました。

6.人生の最終段階の医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインについて理解できましたか。

理解できた　　理解できなかった

5　4　3　2　1

回答	回答数	内訳
5(理解できた)	18	医師7,看護師8,管理栄養士1,作業療法士1,
4	26	医師3,薬剤師4,看護師15,管理栄養士1,理学療法士1,MSW1,ST1
3	0	
2	0	
1(理解できなかった)	0	
合計	44	



理由(5(理解できた))

・事前学習があったので、より理解できた。
・本人の意思が一番尊重されることを理解できました。
・事前学習とレクチャーで理解できました。
・事前学習と講義で学ぶことができました。

理由(4)

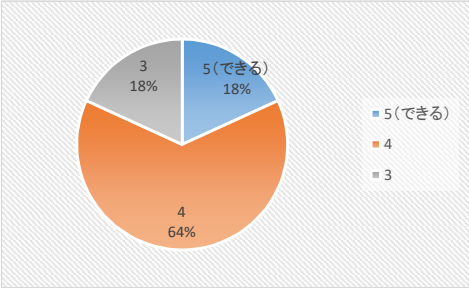
・人それぞれ考え方が違うので難しかったが、逆に様々な意見をきくことができたから。
・仮のケースを踏まえて学習できた
・なじみがない言葉もありましたが、学べる事が多かったです。
・全てではないがガイドラインの内容を理解できた。
・講義と事前学習でだいたい理解できました。
・詳しく学べたので良かったです
・細部に渡っての理解はこれから

7.今後、実践において、家族・介護者が本人の最善利益を考えることができるような関わりを持つことができそうですか。

できる　　できない

5　4　3　2　1

回答	回答数	内訳
5(できる)	8	医師3,看護師4,社会福祉士1
4	28	医師6,薬剤師2,看護師15,管理栄養士2,作業療法士1,理学療法士1,MSW1
3	8	医師1,薬剤師2,看護師4,ST1
2	0	
1(できない)	0	
合計	44	



理由(5(できる))

・プロセスを学び、明日からは活かせそうと感じた。
・実際にロールプレイをしてみて明日からに活かせそうと思った

理由(4)

・話し方や導入の仕方など難しいところもあったが今日の研修を生かせそうだから。
・医療者側の最善と家族たちが本人の最善をふまえて考えられると思う。
・ACPの際、どうしても本人のみへの介入になることが多いため、家族等も一緒に行えるよう工夫したいです。
・家族がどう思うかではなく本人がどう思っているかを推定するように尋ねるようにすれば可能になると思う。
・常に本人にとっての最善は何かと考えるようにしたい。
・意識して持ちたい
・実際に関わりができるまでには他職種の連携が重要になってくると思った
・できるように取り組みたい

理由(3)

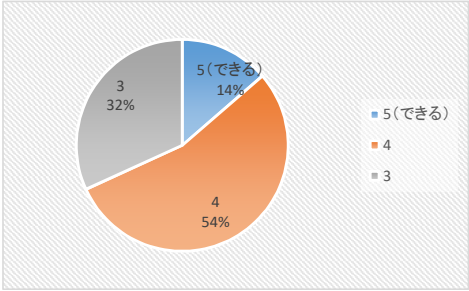
・薬剤師という職業は薬から入ることが多いため、医師の意向も聞きながら関わっていきたい。
・できるようになりたい。経験をつんだり、研修参加等で技術の向上に努めたい
・実践するとなるとなかなか踏み込みにくいことなので･･･

8.今後、本人に、これからの医療・ケアに関する話し合い(ACP:人生会議)を実践できそうですか。

できる　　できない

5　4　3　2　1

回答	回答数	内訳
5(できる)	6	医師1,看護師4,社会福祉士1
4	24	医師6,薬剤師2,看護師11,管理栄養士2,作業療法士1,理学療法士1,MSW1
3	14	医師3,薬剤師2,看護師8,ST1
2	0	
1(できない)	0	
総計	44	



理由(5(できる))

・本人の意向を尊重した決定において大切であると学んだので、意識したい。
・ACPを積極的に行っていきたい。
・機会があれば参加したいし、機会を設けられるようにしたい

理由(4)

・医療現場において重要なものだと思うから実践していきたい。
・できるようにしたいが、時間やマンパワーの問題は残ると思います。
・現在の臨床ではすでに意思決定が困難な方も多いので。
・多職種のチーム育成によるバックアップ体制が必要
・言葉かけに関して、困難するときもあると思いますが、まずは連携できるようにし、実践しています。
・実践したいと思う

理由(3)

・ロールプレイで予想外の方向に話が進むことがあり、まだまだ経験を積まなければいけないと思った。
・今日学んだことを生かしながら実践していきたい。
・できるようになりたい。経験をつんだり、研修参加等で技術の向上に努めたい
・実践するとなるとなかなか踏み込みにくいことなので･･･
・ロールプレイを通じて患者の返答に合わせて対応することの難しさを実感しました。
言葉の引き出しが少ないので、いろんな状況に合わせた対応方法を身につけることが私自身の今後の課題だとわかりました。
・難しいと感じた。思いを引き出す方法を学んだので、活かせるようにしていきたい。

9.今後、院内でACPを推進していくうえで、現場のスタッフへどのような支援が必要と思いますか。

・「理解」と「認識」は別であり、各確認していくことの大切さを伝える。話し合いは非侵襲的であるよう、タイミングや言葉の選び方に注意が必要。
・ACP・意思決定について、スタッフへの勉強会をするなどしていかに大切なことかを周知する。事例を使って深める。
・ACPについて知らないスタッフも多いため勉強会などして広げていただきたいと思います。
・ACPの重要性を周知する必要がある
・ACPの正しい理解（IC、DNARなどと混同されていることがあります。）
・ACP教育
・ACP導入に持って行けるようなスキルの伝達、ACPのタイミングをのがさないこと、依頼関係構築
・このような研修をうけること
・この様な教育を進めていくことが大切だと思います。
・この様な研修会を行い、知識を増やしていくことで推進につながると思います。
・スタッフ全員がACPに関する知識と技術を高められるように定期的に研修に参加することが大切だと思います。
・スタッフ全員が研修に参加できる
・まずスタッフに研修を行っていく
・まずはACPについて考える機会をもつ必要があると感じました。
・まずはDrとの連携
・意識付けと理解、カンファレンス
・患者さんが心を開いて話ができるよう、十分な時間の確保が約束された環境下でのACPを実践する場の準備が必要と思います。
・看護師だけではできないので、組織全体でできるよう環境をつくれるように貢献したい
・基本的な概念・知識の共有
・基本的な考え方、方法の勉強会をする必要がある。
・共通した認識、目的意識
・業務分担、上司への理解、医師の意識改革
・研修で学んだことを伝えていく
・研修とフォーマットの提示があるとやりやすい
・研修内容を伝達、グループワーク実践
・言葉づかい、思いやりをもって接する。Pt様を人生の先輩として尊重する
・今回の研修で行ったロールプレイが実践に役立つと思う。ロールプレイのためには講義も必要であるため、もう少し短時間の院内研修があるといいと思う。
・今回の研修のようなグループワークをスタッフへも行う。
・事前の情報収集の時間が必要だと思います。
・事前学習の公開
・時間・マンパワー
・時間と保険点数
・情報共有
・他の処置で患者・家族との関わりの時間がないためできるだけ時間をつくり支援できたらと思います。
・多職種連携による定期的な呼びかけ、職員の理解が必要と思います。
・電子カルテのひな形作成
・本日行われたACP導入の方法など現場のスタッフへ勉強会が行われると声かけ方などがわかるのではないかと思う。
・倫理やACPの勉強会、実場面へのサブ的参加

10.ご意見・ご感想があればお願いします。

・ACPに関して知識や技術が不十分だったのですが、少し自信を持って患者様に関われる気がします。研修は発言しやすくなごやかな雰囲気でよかったです。
・Step2、3の講義がもう少し時間的にゆっくりしてもらえたらと思いました。
・ありがとうございました。
・とても有意義な時間でした。ありがとうございました。
・ファシリテーターの方々、有り難うございました。
・リハビリとしてかかわれる事を探していきます。本日はありがとうございました。
・学びになりました。日頃の会話から聞くタイミングを失わないようにアンテナをはろうと思いました。
・研修会の成果がわかりづらい分野ですがぜひ継続してください。
・今後に役立てたいと思います。準備ご苦労様でした。
・事例の読みこみをもっとしたかったです。研修時間が不足するのであれば、研修前にいただいてもいいかと思います。
・小児で代理意思決定の両親の認知低下の場合、誰が決定するのか
・盛りだくさんな内容でしたが勉強になりました。ありがとうございました。
・大変勉強になりました。
・大変勉強になる機会となりました。ありがとうございました。
・内容が多く時間が足りないと感じました。
・普段じっくりと時間をとって考えることのない内容をわかりやすく教えて頂き大変勉強になりました。声かけの仕方一つでも印象が全く違うンだなと学びになり、日々の業務に生かしていきたいと思います。

11.その他

・マラソンとかぶらないようにしてほしい。入口が分かりにくい
・開始時間は適当ですが、8時30分頃でも良いかもです
・昼休憩がもう少しほしいです。

心づもりとは？

**自分らしい生活を送るために
事前に考え、伝えることです**

- 治療と共に大切にしていること
- 病気や治療のこと
- どんな医療やケアを受けたいか
- 体がつらくなったとき、自分が過ごしたい場所
- もし自分の意思が伝えられなくなったとき、自分の意思を代弁してくれる人

**今は、治療を頑張っていても、
いつかは話し合っていくこと**

今後のこと、心づもりを話してみたいと思ったときは

**医師・看護師・他のスタッフに
いつでも声をかけてください**

**あなたの意思を尊重した
医療を提供します**

**お問合せ先
医療サービス課
（地域・がん医療連携担当）
096－373－5993**

自分らしく
豊かな人生のための
心づもり

©2010熊本県くまモン#K34231

熊本大学病院
Kumamoto University

ACP推進チーム

もしもに備え、自分や家族
大切な人のために
これからのことを考えて
おきましょう

あなたの心づもりを
教えてください

①心づもりを考えてみましょう

- 大切にしたいこと
- 自分が過ごしたい場所
- 自分が望む医療やケア
- 自分の意思を大切にしてくれる人

②主治医に聴いてみましょう

- 病状
- 予想される経過
- 必要な医療やケア

③話し合いましょう

考えていることを身近な人に伝えてみましょう

- 家族　・自分が頼りにしている人
- 医師、看護師、他スタッフ

④書き留めましょう

- 考えたこと、話し合ったことを書き留めておきましょう
- もし意識がなくなったとき、周囲の人があなたの考えを知ることが出来ます

①へもどり、繰り返し話し合いましょう

気持ちや考えは変わるもの。
繰り返し話し合うことが
大切です

話し合うたびに
書き留めましょう

News Letter

ACP推進チーム 活動報告

2022. 5月

令和３年５月にACP推進チームが発足し、１年が経過

R4.4　ACP推進チームミーティング

令和3年5月に院内の診療支援組織としてACP（アドバンス・ケア・プランニング）推進チームが発足しました。このチームは、当院の方針にもある「患者の希望・期待・要求を尊重する医療の実践」に則り、患者の意向を尊重した意思決定と医療の質のさらなる向上を目的としています。昨年度はチーム体制の整備や活動内容の検討、および先進的診療科における教育等を行ってきましたが、令和4年度はACPの広報や活動範囲の拡大・院内医療者への支援を強化していきたいと考えています。今後とも宜しくお願い致します。

ACP推進チームリーダー　吉武　淳

令和３年度は、３つの診療科が先進的にACPを実践

令和３年度は、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科を中心に先進的にACPを実践し、実例を中心にそれぞれの診療科でACPの勉強会を開催しました（お疲れ様でした）。勉強会では、「臨床倫理４分割表」を情報整理に応用し、患者情報を共有してから医師や看護師、他の専門職とともに意見交換を行いました。消化器内科の田中健太郎先生には、第87回熊本大学病院群 生涯教育・研修医セミナーで講義を行って頂きました（ありがとうございました）。

ご紹介

令和４年度ACP推進チーム（21名、順不同、敬称略）

緩和ケアセンター 吉武 淳・森枝 悟、医療の質・ 安全管理部 近本 亮・一美奈緒子、生命倫理学講座 門岡康弘
医療情報経営企画部 中村太志、看護部 井原国代・安達美樹・塘田貴代美・山本嘉代・徳永美紀
循環器内科 髙潮征爾・山本正啓、呼吸器内科 増永愛子・猿渡功一、消化器内科 立山雅邦・田中健太郎
地域医療連携センター 原田 薫、薬剤部 中村和美・高林 学、栄養管理部 長瀬博美

ACP推進に関するリーフレット（患者・家族用）を設置

【リーフレット設置場所】

病棟　東病棟3階、東病棟5階、東病棟11階

外来　Aブロック、EFブロック

ACPの導入の際などに、当院をご利用の方々へ自由にお配りください。必要に応じて、医療スタッフの皆様がACPについて一緒にお考えになることをお勧めします。

ACPに関する院内でのコンサルト例

1)身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に困っている

2)将来の変化に備え、今後の医療及びケアについて、ご本人やご家族から相談があったが、ACPの導入や進め方がわからない 等

ACP推進チームへのお問い合わせは以下のとおりです。

また、院内に設置しているリーフレットもぜひご覧になってください。

お問い合わせの際は「ACP推進チームへの相談」とお伝えください。
医療サービス課　地域・がん医療連携担当まで（096-373-5993（内線5993））

熊本大学病院ACP推進チーム

人生の終わりまで、あなたは、どのように、過ごしたいですか ？

もしものときのために

「人生会議」

ACP 人生会議

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか～

11月30日（いい看取り・看取られ）は人生会議の日

誰でも、いつでも、
命に関わる大きな病気やケガをする
可能性があります。

命の危険が迫った状態になると、
約７０％の方が、
医療やケアなどを自分で決めたり
望みを人に伝えたりすることが、
できなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために
大切にしていることや望んでいること、
どこでどのような医療やケアを望むかを
自分自身で前もって考え、
周囲の信頼する人たちと話し合い、
共有することが重要です。

話し合いの進めかた（例）

1. あなたが大切にしていることは何ですか？
2. あなたが信頼できる人は誰ですか？
3. 信頼できる人や医療・ケアチームと話し合いましたか？
4. 話し合いの結果を大切な人たちに伝えて共有しましたか？

心身の状態に応じて意思は変化することがあるため
何度でも　繰り返し考え　話し合いましょう

もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組を「 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」と呼びます。
あなたの心身の状態に応じて、かかりつけ医等からあなたや家族等へ適切な情報の提供と説明がなされることが重要です。

このような取組は、個人の主体的な行いによって考え、進めるものです。知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。

詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html

News Letter

ACP推進チーム 活動報告

2022.10月

本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 相談員研修会

人生の最終段階における医療・ケアについては、医療福祉従事者から適切な情報の提供と説明がなされた上で、本人が家族等および医療福祉従事者と話し合いを行い、本人による決定を基本として進めることが重要とされています。

令和３年度 厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業において「本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 相談員研修会」が全国各地区ごとでWeb開催され、令和４年１月２９日（土）の九州・沖縄地方の本研修会にACP推進チームから消化器内科の立山先生、呼吸器内科の増永先生が参加しました。

ロールプレイ

グループワーク

院内開催
「本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 相談員研修会」の様子

また、令和４年６月４日（土）に院内で同プログラムの研修会を開催し、医師、薬剤師、看護師、管理栄養士と院内の様々な職種の方にご参加いただきました。

ご参加いただいた皆様からは、講義やグループワーク、ロールプレイを通して、「ACPの理解が深まった」「多職種と意見交換、ロールプレイができて多くの気付きがあった」等、満足したとのご意見をいただきました。

今後も院内向け研修の開催を予定しておりますので、今回ご参加いただけなかった方、ご興味がある方は、ぜひご応募ください。

多職種で事例を用いたワークショップを実施

令和３年１２月６日（月）に開催されました、第８７回熊本大学病院群 生涯教育・研修医セミナーにおいて、「アドバンス・ケア・プランニングの理論と実践」をテーマに講義とワークショップを実施しました。

講義では、ACP推進チームメンバー消化器内科の田中健太郎先生より「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の実際」を演題に実際の症例に基づき、どのようにACPを行っていったかレクチャーしていただきました。

その後、院内医療従事者を対象に「仮想事例を用いたアドバンス・ケア・プランニング」をテーマにしたワークショップを実施しました。ワークショップでは、初期研修医や薬剤師、看護師、医療ソーシャルワーカーの多職種で活発な議論が行われました。

ACPに関する院内コンサルト例

以下のような場合、ご相談ください。

１)身寄りがない人や高齢者など医療に係る意思決定が困難な人への支援に困っている

２)将来の変化に備え、今後の医療及びケアについて、ご本人やご家族から相談があったが、ACPの導入や進め方がわからない　等

今後、院内各部署へリーフレットを設置する予定にしておりますので、ぜひご覧になってください。

院内設置リーフレット

お問い合わせの際は「ACP推進チームへの相談」とお伝えください。
医療サービス課　地域・がん医療連携担当まで（096-373-5993（内線5993））

熊本大学病院ACP推進チーム

医師の方々へ伝えたい“ACP”
～看護師達と協働してACPを進めるために～

2022年10月

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは、
「もしものときのために、その人が望む医療やケアについて前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取り組み」です。
“人生会議”は、厚生労働省が決めたACPの愛称です。

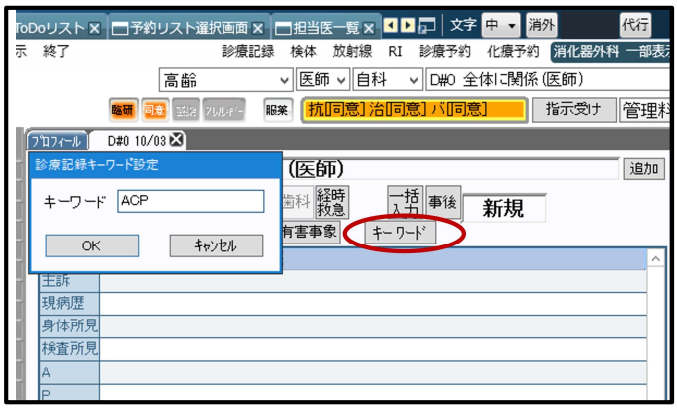
Q）ACPってどういうことをすればいいの？

A）特別なことはありません

ACPは特別なことではありません。これまで通り、終末期が近ついてきた患者さん（予後1年程度）に対して、今後どういう治療を望むか、どこで過ごしたいかなどについて患者さんとともに考え始めることです。最初にその話を始めるのは医師の役割です。話し始める際には、看護師に声をかけ同席を依頼してください。

A）多職種で共有

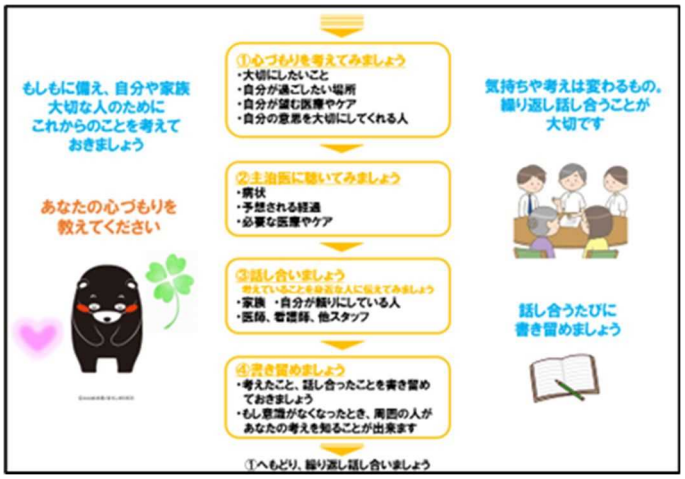
患者さんと話し合いを始めたら、その内容をカルテに記載してください。あとで多職種で共有できるよう、「キーワード」に「ACP」と入力をお願いします。それによって患者さんに関わるスタッフと簡単に共有が可能となります。



A）繰り返しの話し合い

患者さんの意向は病状によって変化することがありますので、繰り返し話し合いを行い、情報をアップデートすることが大切です。患者さんの意向が含まれたカルテ記載にはその都度、「ACP」のキーワード入力をお願いします。

患者・家族用のリーフレット（病棟や外来で配布しています）



熊本大学病院ACP推進チーム

熊本大学病院広報誌

熊大病院ニュース

Kumamoto University Hospital News

ご自由にお取りください
TAKE FREE

第33号
2023年 春号

P1 特集1
地域の垣根を超えた学び合いと連携強化

P2 HOSPITAL TOPICS

P3 特集2
熊本大学病院ACP推進チームの活動と“人生会議”のすすめ

P4 知っ得!納得!Q&A
バイオバンクってなに？

P5 診療科・部門紹介
＊心臓血管外科
＊中央手術部

P6 看護部だより
中央手術部 看護師の活動紹介

裏表紙 総合案内

本院の理念と方針及び患者さんの権利と責務

Kumamoto University Hospital Medical Policy.

理　念

本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

方　針

- 高度な医療安全管理体制による安全安心で質の高い医療サービスの提供
- 患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
- 先進医療の開発・推進と優れた医療人の育成
- 地域社会に貢献できる医療・防災の拠点形成
- 理念達成のための健全な運営・経営の実践

患者さんの権利

- 個人の尊厳と意向が尊重されます。
- 良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
- ご自分の意思で医療を選ぶことができます。
- ご自分の病状や治療方針について、他の医療機関の医師に意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 小児や高齢の方、意思を表出しづらい方も、適した方法でコミュニケーションが図られます。
- プライバシーや個人情報が保護されます。

患者さんの責務

- ご自分の健康状態について正確に伝えてください。
- 治療に積極的に参画してください。
- 社会のルール、本院の規則を守ってください。
- 迷惑行為を行わないでください。
- 医療費を遅滞なく支払ってください。

メールマガジンはじめました。

熊大病院ニュースなど、熊本大学病院で発行する冊子などの発刊情報をはじめ、様々なイベント情報を配信していきます。
右のQRコードからぜひご登録ください

ご寄附のお願い

1.熊本大学基金「病院診療教育研究支援事業」

熊本大学病院は、最良の医療を提供するための患者サービス向上、診療活動、医療人の教育・学術研究及び地域貢献活動への支援・環境整備等に資するため、「病院診療教育研究支援事業」を創設しました。

【お問合せ】
熊本大学　研究・社会連携部　社会共創推進課
基金・同窓会事業室　TEL 096-342-3129

2.病院寄附金

熊本大学病院では、若手医師をはじめとした医療人の教育・学術研究の支援並びに大学病院の管理運営等に資するため、企業や個人の皆様の篤志に基づいて寄附金を受け入れております。

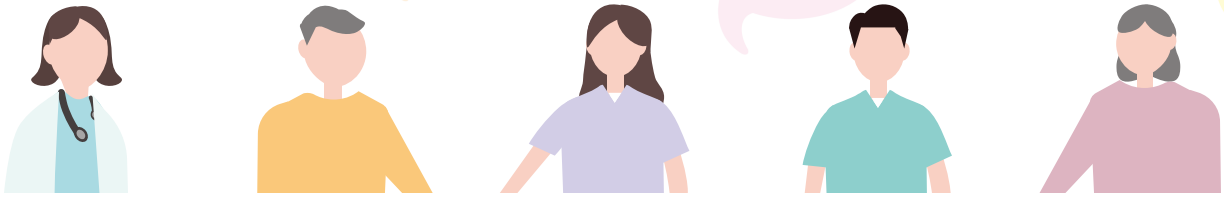
【お問合せ】熊本大学
医薬保健学系事務課　医学事務チーム
研究支援担当 TEL 096-373-5658

ご寄附をいただいた場合、税制上の優遇措置を受けることができます。
詳細は熊本大学病院ホームページをご覧ください。

スマホ・携帯電話の方はこちらから

熊本大学病院 ACP推進チームの活動と“人生会議”のすすめ

【監修】緩和ケアセンター長　吉武　淳



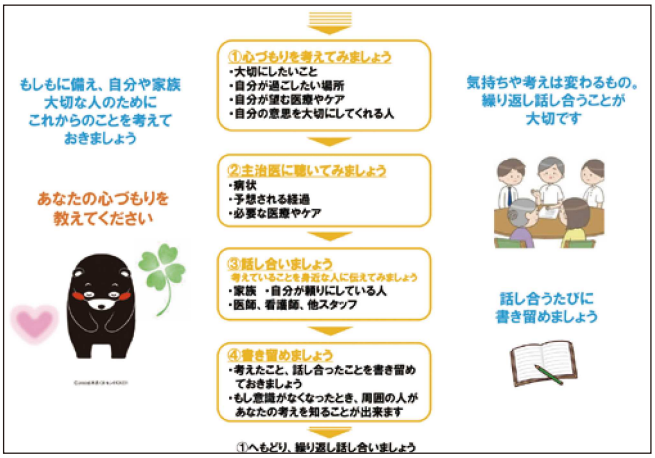
皆様は「人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）」をご存知でしょうか。もともとは「アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning: ACP）」と表現して国が国民に対し普及と啓発をすすめていましたが、より馴染みやすい言葉として「人生会議」の愛称で呼ばれるようになりました。「人生会議」とは、もしもの時やこれからの医療やケアにおける“意思決定”の土台となる、あなたの考えや気持ちを整理するための“話し合い”です。人生の最終段階における医療・ケアについては、医療従事者から適切な情報提供と説明がなされたうえで、医療従事者との合意形成に向けた十分な話し合いを踏まえた本人による意思決定を基本とし、多職種から構成される医療・ケアチームやご家族と話し合いを繰り返すことが重要だと言われています。例えば、将来の病状変化に備え本人やご家族がどう準備していいのか分からない方や、相談できる身寄りがいない人など医療やケアに関する意思決定が困難な方々も対象となります。

当院では2021年5月にACP推進チームを設置し、院内の医療従事者を対象とした教育・臨床支援活動を開始しました。意思決定に関する症例検討会やACPをテーマにしたセミナーを開催し、2022年度以降は院内のみならず地域の方々に向けた「人生会議」に関する知識の普及と啓発を実践しています。

2023年3月12日（日）午後に熊本城ホールで県民の方々を対象とした「人生会議」の公開講座を予定していますので、当院緩和ケアセンターのホームページをご確認ください。また、「人生会議」についてもっと詳しく知りたい方は、厚生労働省ホームページをご覧ください。

◀ 緩和ケアセンター ホームページ
https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/palliativecare/

厚生労働省ホームページ ▶
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html



患者・家族用のリーフレット（病棟や外来で配布中）

令和４年５月１０日

ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ・ｹｱ・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ（ACP）
推進チーム代表　殿

臨床カンファレンスチーム代表
副病院長　向山　政志

令和４年度臨床カンファレンスの担当について（依頼）

常日頃から、臨床カンファレンスチームの活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、臨床カンファレンスは、本院及び大学院生命科学研究部等の職員、大学院医学教育部及び医学部学生を対象として、症例検討を通じて、幅広い考察力と行動力を高めることを目指すことを目的に、昨年度までに４８回の臨床カンファレンスを開催しております。

今年度の開催については、臨床カンファレンスチーム会議で例年通り年３回開催し、事前に行ったテーマに関するアンケートで多くご意見が寄せられた内容からテーマを決定させていただきました。

つきましては、下記テーマについてご担当いただきますよう、ご依頼申し上げます。お忙しいこととは存じますが、ご協力の程よろしくお願いいたします。

また、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、開催形式等変更させていただくこともありますことをご容赦いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、ご承諾の上は、別紙承諾書により合同で担当いただける診療科等を併せてご推薦いただきますようお願いいたします。

記

回	テーマ	開催月
第５１回	熊本大学病院における ACP の取り組みについて	令和５年２月

【本件担当】
医事課医事総務担当　佐藤（5965）
e-mail: iyks-iji@jimu.kumamoto-u.ac.jp

（参考資料）

★R4 年度 臨床カンファレンス実施計画について
（R4.3.22 開催 臨床カンファレンスチーム会議にて決定）

開催時期	テーマ	担当部署（診療科）	選定理由
７月	がんゲノム医療	がんセンター （がんゲノムセンター）	H30 年に第 37 回「がんゲノム医療とプレシジョン医療」を開催したが、当時から状況が変わっているため、これまでの院内の実例を交えて、今後の課題を含めた検討ができると考えたため。
１１月	遺伝学的検査と遺伝カウンセリング、遺伝子治療の最前線	小児科、遺伝カウンセリングチーム	本院の遺伝学的検査等の現状について知られていない部分があるので、学ぶ機会が必要だと感じたため。
２月	熊大病院における ACP の取り組みについて	アドバンス・ケア・プランニング（ACP）推進チーム	令和元年第 40 回「アドバンス・ケア・プランニング」では心不全管理の内容を中心に開催しており、今回、緩和ケアの側面から症例を基に現状について共有ができると考えたため。